☆きよめのあかし☆

きよくして欲しい

チャーチ・オブ・ゴッド
川崎教会副牧師　古波津真琴

私には「『きよめを経験する』という時期がありました。現象を求めていた時期があったのです。きよめを自分なりに理解しようとし、「自分の人生の中で腑に落ちる経験」を探し出して、それを「きよめ」として納得しようとしていたのです。まさに、主イエス様ご自身を求めるよりも、霊的イベントを求めていたような者でした。

神学生四年生の時の事です。私の母校・インマヌエル聖宣神学院では、四年生になると学院外で実施訓練を受けます。その期間を用いて、ニューヨークにある団体のインターンシップ・プログラムに四ヶ月間参加させていただきました。

そこでの訓練プログラムは本当に大変で、全てが数字で評価されていきます。「訓練を受ける」というからには、人からの評価を甘んじて受ける心構えをしているつもりでしたが、実際に評価の嵐の中を通ると自らの実態が現れます。

例えば、メッセージの評価がされると、次のような感情がわき起こります。

「あの人のメッセージは評価されるのに、なんで私のは駄目なのだ？」「本当ならもっとできるのに。日本語だったらこんな事にはならないのに…。」

と、実際に全くできない今の現実を見つめないで、できた頃の自分ばかりを意識する。その背後には「自分はもっとできるはずなのに、という余計なプライドがあったのです。私はそれに目が開かれていませんでした。

そんな時にご聖霊が来て、私がその様なプライドでガチガチだということを示して下さったのです。そのことに光があてられた時、単純にこう思いました。

「あぁ、自分って卑しい…。」

神と人とを愛して仕えるといいながら、口先だけの偽善者だという事に気付かされたのです。

「きよくして欲しい」

素直な願いでした。私はきよめられないといけないと、主に飢え渇いた瞬間でした。

その時に改めて与えられたみことばが、ローマ6・11です。

「自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。」

このみことばが生きて働いたのです。それは、決して強烈な現象でもなければ、感情の高まりでもありません。ただあったのは、主が確かにこのみことばを用いて私に語って下さっているという確信と頷きでした。私の卑しい性質はイエス様の十字架によって死に、今は神のために生かされていると信じること、その死と復活を賜物として受け取るのだと。私はただそれを信じたのです。

それ以後、時として自分の卑しさが再び芽生えてくるような事もありますが、与えられたみことばに対する信仰と神の力に対する信頼は変わらずにむしろ強くされつつあることを思います。

私を救いに導き、きよめの恵みを知らせて下さった主は、これからも、私を主のみこころにかなうきよい者へと変えていって下さる。そう信頼することができる者へと変える恵みを、その時、私は受けたのです。

☆プレイズ＆トーク☆

春の青年大会報告

青年委員会
シオン・キリスト教団蒲田教会
クロスロード・チャペル副牧師　荻　野　泰　弘

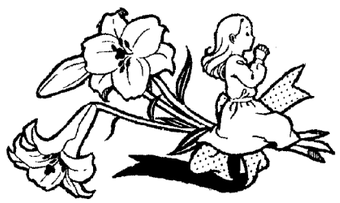
去る二〇〇八年六月一日、インマヌエル中目黒教会を会場に、JHA春の青年大会を開催しました。今回のテーマは「どこを切ってもクリスチャン―みことばを土台にして生きる」です。新年度がスタートして二ケ月。特に新しい環境に移った方々（新入生、新社会人）にとっては、まだ緊張もほぐれない頃。励ましと、拠って立つべき所の再確認をと願いつつ集会を企画しました。

開会は午後五時ですが、春の青年大会では、集会前にティータイムがあります。この時間に集まる人は多くありませんが、友人同士の語らいがあり、教会を越えた交わりがあります。

午後四時四五分、来会者が礼拝堂へと移動し、それを迎えるように、バンドチームの賛美が始まります。古波津真琴先生を中心としたチャーチ・オブ・ゴッドのバンドチームはとてもエネルギッシュで、導かれる会衆が一つとなって賛美をささげます。賛美の途中で握手タイムがあり、見知らぬ者同士、しかし主にある家族であるお互いが共に集えたことを喜び、握手を交わし、一つ心へと結ばれます。

十分に賛美がささげられたところで、講師にバトンが渡されます。今回は安藤理恵子先生（KGK総主事）をお迎えしました。ピリピ書1章27節を中心に、みことばを土台とした生き方がクリスチャンの生き方であると、テンポ良く、鋭く、明確に語られました。集会後のアンケートには〝安藤先生の鋭いメッセージに励まされた〟〝力づけられた〟との声が多数記されていました。毎回、主は良き器を立ててくださいますが、今回も主が備えられた器を通して素晴らしい恵みのわざがなされました。

メッセージ後には一人一人が語られたメッセージを思い巡らすクワイエット・タイムと、数人での分かち合いの時を持ち、恵みを深めます。



開会後、階下のホールで交わりが持たれましたが、恵みの余韻に浸り、みんななかなかその場から離れませんでした。会場教会にはご迷惑をおかけしましたが、名残惜しいほどに集会を喜んでもらえたことは感謝なことでもありました。

青年たちは、この時代にあって、主の恵みに生き、主に従っていきたいと願っています。彼らが新しい時代を切り開き、福音を担う器であることを覚え、これからもお祈りください。

◆今秋開催の全国各地の聖化大会◆

●第19回 九州聖化大会
- ●日時　2008年10月28日（火）
- ●会場　基督兄弟団 福岡教会
- ●講師　ビクター・ハミルトン博士

●第4回 備前聖化大会
- ●日時　2008年10月26日（日）
- ●会場　日本イエス・キリスト教団 香登教会
- ●講師　ビクター・ハミルトン博士

●第55回 ジョン・ウェスレーに学ぶ会
- ●日時　2008年10月24日（金）
- ●会場　日本ナザレン教団 大阪桃谷教会
- ●講師　ビクター・ハミルトン博士

●第21回 東海聖化大会
- ●日時　2008年10月23日（木）
- ●会場　福音センター イムマヌエル名古屋教会
- ●講師　ビクター・ハミルトン博士

●第23回 関東聖化大会
- ●日時　2008年 10月19日（日）-21日（火）
- ●会場　ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
- ●講師　ビクター・ハミルトン博士

●第13回 山形聖化大会
- ●日時　2008年9月23日（火）
- ●会場　基督兄弟団米沢教会
- ●講師　島　隆三師（日本基督教団仙台青葉荘教会）

●第20回 宮城聖化大会
- ●日時　2008年9月15日（月）
- ●会場　日本基督教団 仙台青葉荘教会
- ●講師　村上宣道師（日本ホーリネス教団 坂戸教会）

主講師　ビクター・ハミルトン博士のプロフィール

ハミルトン博士は、アズベリー大学の聖書と神学の教授として長年教鞭をとられ、2007年に定年退官された。同博士は、ホートン大学（Houghton College）を卒業後、アズベリー神学校で学ばれ、神学修士号を取られ、その後、ブランデイス大学（Brandeis University）から哲学博士号を授与されました。専門は、モーセ五書で、5冊の書物を執筆され、創世記とモーセ五書の注解書も出版された。また、New Living Translation Bible（NLT）の翻訳にも携わられた。同博士は、アズベリー大学の学長を務めたデニス・キンロー博士の愛弟子であられ、北アメリカの諸教会、聖会、修養会等の説教者として広く用いられ、アズベリー大学のチャペルでは、学生の間で最も人気のあるスピーカーの一人であられた。シェリー（Shirley）夫人との間には、4人のお子様がおり、多数のお孫さんがおられる。ハミルトン博士は、カナダのトロント生まれであるが、2005年にアメリカ国籍を取得された。